

データサイエンス共同利用基盤施設
令和4年度 第1回運営会議 議事概要

日 時：令和4年6月27日（月）10:00～11:45

場 所：ウェブ会議（Zoom を利用）

出席者：

【外部委員】小舘委員、諏訪委員、高橋委員、照井委員、堀委員（副議長）、矢嶋委員、横山詔一委員、横山雅之委員

【内部委員】荒木委員（議長）、門倉委員、前田委員、北本委員、野口委員、上野委員、野水委員

【陪席】 金川特任専門員、橋本副課長、昨間 DS 推進係長、田河係員

議 題：

議事に先立ち、4月に施設長に就任した荒木委員から挨拶があり、また今回から新たに委員に就任した小舘委員から挨拶があった。続いて荒木委員（議長）から、副議長として堀委員の指名があった。

審議事項

1. 前回議事要旨確認

荒木委員から、修正意見等がある場合は会議終了までに申し出るよう発言があり、特段の意見はなかったため、案のとおり確定した。

2. 令和4年度人事について（新規（兼務）、昇任（客員））

門倉委員から、資料2-1・2-2（回収資料）に基づき、前回配置換えを承認頂いた兼務2件について説明があり、審議の結果、承認された。

続いて荒木委員から、資料2-2に基づき昇任（客員）について1件、功績に応じた准教授から教授への昇任について説明があり、審議の結果、承認された。

3. 2022年度公募型共同研究の書類審査結果について

はじめに野水委員から、新規の委員に向けて DS 施設、及び公募型共同研究の概要について説明があり、

資料3-1～3-3に基づき、審査の大きな流れについて、審査の基準、日程について、また、研究に参加する為1名審査に加わらなかった委員がおり、他課題別に利害関係にあたる委員は加わっていない、利害関係にあたる可能性がある審査員についてはこちらでは利害関係は無いと判断した物の記録はしている旨の説明があった。

審査委員の評価結果について、先ほどに述べた評価方法、基準に基づいて審査した結果47件中2件だけが不採択という結果になった旨説明があった。審議の結果、承認された。

続いて荒木委員から、資料3-4に基づき、24件継続型の申請が来ているという

説明があった。また審査の基準が緩く見えるが、DS を広く広めることが目的であると説明があった。

野水委員より この6年で236件の応募をいただいて、225件を採択、かなり高い確率で採択している。今年は2件共同研究集会をやっているおり、今年度は2回目の公募をしたいと思っている、他今回来た所属機関、参加機関の分析を現在行っていると説明があった。

また旅費の使い道など、審査要項への追加文章について野水室長は意見を求めた。

これに対して横山委員より審査要項は誰に向けて書かれたのか、外部へ公開はする予定か、という質問があり、野水委員からあくまで審査委員が見るものであるが、今後広く外部へ公開をすることも考えているという説明があった。

矢嶋委員より採択のハードルが低い、最初多くの応募があった場合、1回だけの開催になってしまうのか、開催の回数について質問があり、野水委員から今後も2回を基準に考えていると説明があった。

諏訪委員からこれから人数が多くなって、前と同じように配分が出来なくなった場合、採択額の配分の割合について質問があり、野水委員からDSの受け入れ教員に限りがあるため、事実上の上限があるという説明があった。

報告事項

4. 令和5年度概算要求について

荒木委員から、資料5-1に基づき、ROISにおけるDSの予算割合、及びDS内のセンター配分額をはじめとした予算内訳の説明があった。

6400万を要求したがこれは当初の10分の1なので継続的に申請していく。

令和4年度概算要求は組織整備分として2名（統計教員1名、全体マネージャー1名）がついている。

またバイオデータ研究拠点、日本文化ビッグデータ研究ハブ、など

新たな研究拠点を整備する予定があり、令和5年度はこれを動かしていきたい。

他人事について、新規の人を採り、配置換えを行い、3つのハブを管理できる全体マネージャを取りたいと思っている。

他、研究コーディネーションや支援などの機能をここに持たせたい。

このDSの中にないような、データサイエンスを行う事をしたい、

ROIS-BSIの体制構築を行っていききたいと説明があった。

荒木委員より予算について十分についた物ばかりではないがデータサイエンスを伸ばしていきたいと考えていると説明があった。

堀委員より、日本文化ビッグデータ研究ハブについて運営はNIHUとの協力の上で運営を行っていくという説明があった。

続いて荒木委員から、資料5-3に基づき、令和5年度概算要求として前年度積み残し分を含め7名の要求、プロジェクト経費としてDDBJで使用するスーパーコンピュータ

一のストレージ拡張費用を要求する旨の説明があった。

小舘先生より、メタデータの扱いについて、データを整備していくことについて、新たに標準を策定していくということはやっていくのか、それについて考えがあるのか、という質問があり、

荒木委員から、データは既存の物に揃えていく方針、NII の先生にも BSI には参加していく、実際に国際標準を作る際に海外組織と連携を進めていくと説明があった。

野口委員より現在の DBDJ は世界中色々な機関とデータのやり取りを行っており、その辺のノウハウについて使うことが出来るのではないかと意見があった。

それに対して荒木委員よりバイオは色々なフォーマットがあると思いますが、バイオの人以外も使えるようなフォーマットも考えていく必要があると意見があった。

照井委員よりデータサイエンスを教える人材に絞っている、バイオと人文に絞っている。他分野にも

荒木委員よりこの拠点から全体を見越して様々に広げていきたいという説明があった。

矢嶋委員よりこれは何年かけて完成させていくのか、荒木委員より概算要求の5年を見越しているが5年では出来上がらない。基幹経費化させないといけないという説明があった。

荒木委員より CD しないといけないと説明があった。北本委員から CD という機能が必要。幅広く。

5. その他

荒木委員から、何か意見はあるかと募集、

高橋委員より、DS 全体の中のセンターとしての役割、拠点についての今後に期待する。

横山委員より、データのライセンスについて(クリエイティブコモンズ)どのように考えているのか、北本委員より CCBYSA? 国文研との研究には使っている。

ウクライナ情勢の中でどこまでオープンサイエンスを維持していくのか、努力していかないといけない。

資 料：

0-1	データサイエンス共同利用基盤施設運営会議委員名簿	P.
0-2	情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設運営会議規程	P.
1-1	令和3年度第4回運営会議議事概要(案)	P.
2-1	令和4年度人事案件 審議対象者リスト [回収資料]	画面共有
2-2	令和4年度人事案件 審査資料 [回収資料]	画面共有
3-1	ROIS-DS-JOINT2022 審査要項	P.
3-2	(参考用) ROIS-DS-JOINT2022_書面審査委員一覧	P.

3－3	審査担当割（査読割結果）	P.
3－4	〔回収資料〕書類審査結果	P.
3－5	R0IS-DS-JOINT2022_審査要項 20220624 改定案	P.
4－1	DS 施設令和 3 年度予算概要	P.
4－2	R5 概算要求資料（教育研究組織整備事業）0622	P.
4－3	R5 概算要求資料（教育研究組織改革分【総表】	P.